

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷 銀杏ホーム		
所在地	島根県益田市横田町710		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の生活が自然に営めるよう、ご利用者様一人一人に寄り添い、個々のペースに合わせた支援を目標としている。職員の動きや想いが業務化せず、ご利用者様を中心に穏やかでゆったりとした気持ちで暮らせる場所作りに努めている。楽しい気持ちを大切に一つでも多くの笑顔、沢山の笑い声のある環境作りを行っている。又、看取り支援にも力を入れ、人間の命と向き合う中、多くの学びを得てスタッフの成長にも繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームこもれびの郷 桜ホーム に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然に寄り添い心からの笑顔という理念の基、日々の支援を行っている。管理者とのミーティングの際には事例を挙げて、理念に基づいた支援が実践できているか振り返り話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、月1回の茶話会、年2回の避難訓練、年1回のさんさん祭り、その他行事を通して地域の方に参加して頂き、交流を行っていたが本年は新型コロナウイルス感染予防対策として自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回発行のこもれび新聞にて、日々の生活の様子を掲載し、認知症に対しての知識やご理解が頂ける様地域の方々にも情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回定期に開催している。幅広い分野から主席して頂き、日々の実情を報告・説明し、様々な視点からの貴重なご意見を頂いている。頂いたご意見が日々の支援、サービス向上に繋がるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に市役所の担当者も必ず出席して頂き、サービス内容事故やひやりハット等報告している。又、様々な点で気軽に電話などで問い合わせることもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない取り組みとして、日中玄関の施錠はせずに誰でも自由に出入りできるよう自動ドアの電源を切り、手動の状態にしていたが、新型コロナウイルス感染予防の対策として直接戸に接触しない様自動ドアにて対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が虐待防止に努めて支援している。疑問をいただいた時には声に出して話し合っている。年4回、身体拘束廃止適正対策委員会を開催し、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為が行われていないか、又類似した行為がないか検討し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年一人ずつ(今年はコロナで中止)権利擁護の研修に参加し、制度の理解を深めている。研修参加者と共に実際現場で目標を立てて実習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分時間を取り、重要事項等書類に沿って説明している。不安や疑問な点もしっかり聞き、心配が解消できるよう補足している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を開催し、ご家族様よりご意見を頂いている。その内容はミーティングや会議等で話し合い、次年度の事業計画に取り入れる様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議で十分時間を取り、職員の意見を聞いた上でしっかり検討し、施設運営における様々な面に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の賞与では努力や実績を評価し、メリハリをつけている。その際、役職・資格・理念への理解、他職員との協調の5項目で役職、職員代表で審査し、人事考課配分を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、力量に応じて、スキルアップとなるよう研修参加への促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、GH交流会に参加し、他施設の職員と勉強会を行う事で交流・情報交換し、スキルアップに努めていたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の為にできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取った情報を基に、職員間で共有し、経過を観察しながら困っている事、不安なことを把握し、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時にご家族様の不安な思いにしっかりと傾聴するよう努めている。面会時にもご家族様と面談し、しっかりとお話を聴くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の情報より、仮のケアプランを作成し、ご本人様の様子をしっかりと把握した上で本プランを作成し、支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達職員も一緒に作業等を行い生活をする事で、出来る事、出く無い事を見極め、生活の中での役割分担をし、無理強いしない自然な生活が送れる様努めている。その中には、おのずと信頼関係が生まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されていてもご家族様は近くて、大切な存在です。受診・入院等の付き添いや外出などをして頂いていますが、新型コロナの関係で機会が減っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ケアプランにも組み込み、これまでの関係の継続支援に努めている。コロナ禍において更に工夫をしながら繋がり維持を保っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しみを通じて利用者同士の関わりが持てるような支援を行っている。関わる事が困難な方には職員が橋渡しをして孤立されないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のご様子をお知らせいただくこともある。街などで出会った際に声をかけてくださり、交流が続いている。退所されてからもお祭りに来てくださるご家族様もいる(今年はコロナで中止)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いや、意向をはっきりと伝える事ができる方は少ない、日頃の会話や表情から読み取りながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、体験や家族のお話を聞き出したり、ご家族様からも情報を得ながら、施設での生活に生かせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	軽作業や体操を共にする中で、様子を観察し、現状把握に努めている。そこから一人一人の現状に応じた家事等を依頼している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて、モニタリング、新しい課題の検討を行い、ご家族へもお伝えしたり、ご意見を頂いて、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた支援を介護記録に記している。その他、変化や気づき、共有すべき事は連絡ノートに記録し、職員間で情報共有し、それらを基にモニタリングを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情で動きのとれない時等、衣類や布団などの買い物、自宅へ衣類を取りに行く等、ニーズに合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児の訪問や運動会見学、ボランティア訪問等あったが、今年の3月からは行っていない(コロナの為)中学生と地域が行うイベントの竹灯籠づくりを依頼され、お手伝いした。皆様喜んで作業された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の希望を大切にしてくださっている。毎月の往診時には日頃の生活の様子や体調の変化、服薬状況をお伝えし、必要に応じて、専門医への紹介をして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきを看護職員にその都度伝え、助言を頂いている。往診時には同伴して頂いて医師との中継役を担ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設側の意向をしっかりと伝え、早期に退院ができるようお願いしている。退院が困難な場合は、その後の状況を考慮しながら相談員等と協議し、またご家族様のご意向に添う流れをとるような話し合いに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際に、終末についてご家族様に施設としての取組を説明し、ご意向も確認している。重度化した場合はかかりつけ医とご家族様と施設とでカンファレンスを行い、家族の思いに沿った対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練は行った事があるが、定期的に行う様にしなければならないと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災想定と自然災害の避難訓練を行っている。重度化に伴い、誘導方法が難しくなっているので、毎回真剣に取り組んでいる。地域との協力体制として、運営推進会議等で避難についての話し合いに加わって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者はどう感じるだろうかという視点で特にトイレ誘導ではご本人の羞恥心に配慮しながら声をかけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定して頂ける様意識して支援している。ご自分の思いや希望を伝える事が困難な方には選択しやすい方法を取り入れたり、日頃の生活の様子から読み取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や情緒に配慮しながら関わりを持ち、何がしたいのかどうしたいのか探りながら生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は職員と一緒に選んでいる。選ぶのが難しい方にはその人の好みに合わせて職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る力を発揮し、盛り付けなどお願いしている。献立は職員がたてるので皆様の食べたいものを把握し、季節のものを取り入れる様に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じてゼリー食、刻み食、高カロリー食と、食事形態を工夫しながら栄養・水分摂取に努めている。また水分摂取が難しい方には水分摂取表を用いて水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの必要性等を説明しながら実施している。また、うがい等困難な方には口腔ケアウェットティ等で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の体調と合わせて、排泄の間隔をしっかり把握し、トイレでの排泄につながるよう声掛け・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は体調に大きく変化をもたらす為、チェック表を用いて、把握に努めている。水分摂取を促がしたり、軽運動を行う事で便秘の予防となるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介護の度合いによって入浴の頻度が異なっている。介護度の高い方については、職員の都合ではなく、その方の体調に合わせて支援している。又、湯温なども個々の好みに合わせ調整したりシャワーの強弱等にも配慮し対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールでもソファーやリクライニングチェア等ゆとりくつろげる環境を整え、自由に過ごして頂いている。自然な入眠に繋がる様個別に室温や灯りを調整している。休めない方には温かい飲み物、TV観賞やスキンシップ、対話等でリラックスし入眠に繋がる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員は共通理解の上、服薬支援をしている。個別に服薬形態を変えている(潰す、溶かす等)医師に依頼し、錠剤を顆粒剤に変更してもらうこともある。薬剤師も様々な点で力になってくれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に努め、今ある力を活かした日課、役割が持てるよう支援している。又、個々の楽しみを知り、気分転換できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で大変難しい状況の中でも今年家族との外出、自宅への外泊が出来ない分、積極的にドライブへ出掛け、自宅近隣を走るなどした。どこへ行きたいか意見を聞き、外出先を決めるよう努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金品は一切お預かりしていません。(腕時計、ネックレス以外)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をし、会話の橋渡しをすることでスムーズな対応ができるよう支援している。又、日頃の様子をプリントした葉書に想いを書き添え(自分で書けない方は代筆)ご家族へ送っている。送る相手もご本人に決めていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、時季を思わせるディスプレイ、皆様と共に作り生活感のある心地良い空間作りに努めている。共有トイレ前にカーテンをし、不快感解消のため工夫している。TVや音楽の音量、食事や飲み物の温度、職員の立ち振る舞いなど、刺激にならぬよう意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プレイルーム前のベンチでは独りの時間を満喫できる。逆にそこに集い、共に生活する方々のコミュニケーションの場にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお願いし、必ず一つは馴染みの物を持参して頂いている。又、腕時計やネックレス等、毎日欠かさずつけていた習慣を継続し、安心していただけるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の今ある力の把握に努め、できる事、やれることの継続・維持を目標に個別支援、又は2・3人で協力して行える支援を提供している。ただの“作業”とならぬよう自信や満足感が得られる工夫もしている。		